

NGU 教養スタンダード

NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部 of 学生でも学べる《NGU 教養スタンダード科目》を開設しています。《NGU 教養スタンダード科目》は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような 3 つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

NGU 教養スタンダード科目の構成

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

情報に関する科目

高度情報化社会の要請に応えるため、数理・データサイエンス・AI 教育の充実が、本学の情報教育の特色です。1 年次の「情報処理リテラシー（必修科目）」では、全学生に配付したノートパソコンを使って情報処理の基礎知識と基本スキルを学修します。また、「データサイエンスリテラシー」「データサイエンス概論」「AI 概論」「情報処理論」などでは、数理・データサイエンス・AI の基礎知識と様々な応用法、並びに近年のデータサイエンス分野の動向などを学修します。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、日本語表現法関連科目を学修することができます。

社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の 4 区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

大学 COC 事業に関する 4 年間の学修

文部科学省は「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生のみなさんが地域のことに興味関心を抱き、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は「Center of Community」の略で、「地域再生の核となる大学」という意味です。

学生のみなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内の学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合があります

COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」				
② 課題解決型授業（PBL）				
③ 地域志向型科目（各学部専門科目）				
④ 教育イベント「地域フォーラム」				

- ① 全学生が参加する **1 年生の教育イベント**として、「基礎セミナー」において、名古屋市熱田区または瀬戸市にかかわる「まちづくり提言コンペ」を実施します。
- ② **課題解決型学習（PBL）**として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開講するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」（減災福祉のみ）で継続受講することも可能です。
- ③ 各学部の専門科目において、地域を学修対象とした**地域志向型科目**を開講しています。
- ④ 全学生が参加する **3・4 年の教育イベント**として、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「**地域フォーラム**」を実施します。専門科目としての演習科目やゼミなどで学修・研究した成果を広く地域へ発信します。

初級まちづくりマイスター

まちづくり分野（地域商業・減災福祉）で開講している「まちづくり学」「まちづくり演習」科目の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

上級まちづくりマイスター

初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。

外国語学部 英米語学科

教育目標（学則第3条の2より）

英米語学科は、英米語の実践的なコミュニケーション能力を習得し、その言語が使用されている地域の文化、社会や世界情勢などを学ぶことにより、広い教養を身につけた国際化に対応できる人材の育成を教育目標とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

外国語学部に所属する学生は、大学全体のディプロマ・ポリシーの内容に加え、学部のカリキュラムを履修、学修することを通じて、以下の能力が獲得できます。これにあわせて、卒業に必要な単位を修得した学生には学士（文学）の学位が授与されます。

知識・技能

- 1) 言語についての幅広い知識を獲得し、それを活かすことができる。
- 2) 英語圏の地域の文化、社会、歴史、価値観などについての十分な知識を獲得し、理解を深めることができる。
- 3) 特定のトピックに関して、英語の正確な聴き取り、英語による自己表現を実践することができる。
- 4) 実践的な英語力の獲得により、グローバルな環境で英語による的確なコミュニケーションや議論ができる。

思考力・判断力・表現力

- 1) グローバルな視点から世界の文化、社会について考え、自分なりの評価を下すことができる。
- 2) 実社会で問題にぶつかった時、それについて注意深く考え、問題解決のための適切な判断を下すことができる。
- 3) ビジネス、ツーリズムなどの実社会において、論理的に自分の意見を述べることができる。

主体性・多様性・協働性

- 1) 「ことば」という観点から、英語がもつ特質・特徴についての十分な知識を獲得する意欲を持っている。
- 2) 世界の人間、文化、歴史、価値観などを尊重することができ、より広い視野から世界を観察することができる。
- 3) 実社会に必要な自主性、協調性、ルール順守など、責任ある社会的態度を身につけ、集団内で積極的に活躍できる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

ディプロマ・ポリシーで掲げた目標を達成するために、外国語学部では、次のような教育内容、教育方法、学習成果の評価の方針に基づき、カリキュラム編成と授業実施をおこないます。

教育内容

- 1) 外国語学部のカリキュラムは、NGU 教養スタンダード科目と、学部専門科目によって構成されています。学生は必修科目とともに主体的興味・関心に即してその他の科目を選択します。
- 2) カリキュラムは、基礎から発展・応用へ、個人的レベルから社会的レベルに向かって学びの段階を上げていく学修体系となっており、社会人基礎力を着実に身につけることができます。

- 3) すべての科目は、履修を通じてどのような能力の養成をめざしているのか明示されているので、目的意識をもって計画的に学修できます（養成される能力は、細かく 10 項目に分かれています。詳細は、前項「ディプロマ・ポリシー」を参照してください）。
- 4) 所定の科目を履修し単位を修得すれば、中・高教員免許（英語）や日本語教員養成プログラム修了証を取得できます。
- 5) 学部専門科目には、多岐にわたる科目が配置され、その多くは学習段階に合わせ、基礎から発展にいたる科目構成となっています。これらの科目を数多く履修することで、幅広い教養と同時に、専門的な深い学識が身につきます。
- 6) 学部専門科目では、基礎科目群として、英語の 4 技能の修得をめざした必修科目が配置されています。それを土台に発展科目群として、学生の細やかなニーズに応える多様な英語科目と、中・上級者を鼓舞する「英語で学ぶ」諸科目があります。
- 7) 外国語学部では、言語そのものを学ぶに止まらず、ディベートやプレゼンテーション、ビジネスライティングといった技能や、言語に関する学問を身につけます。仕上げとして国際社会への入口となるべき諸科目や、観光業や航空業などへのキャリア形成を応援するビジネス系科目を多く配置しています。また、卒業後のキャリアを意識した企業連携による演習科目を、4 年間を通して配置しています。このことによって、大学での学びを卒業後のキャリアに結びつけることを支援します。

教育方法

- 1) 学生の主体的な学びを引き出すため、ICT 技術の活用、少人数・双方向型の授業の推進を図るとともに、授業外の学修について適切に指導します。
- 2) 1 年次から 4 年次まで演習科目を配置し、グループワークやプレゼンテーションなどを通して講義科目で修得した知識の定着を図ります。
- 3) インターンシップ、フィールドワーク、海外留学など、キャンパス外での学修機会を用意します。特に外国語学部では、海外留学による学修機会を豊富に用意しており、学生が異文化の中で経験を積み、その後の学修や社会に出てからのキャリア形成に貢献できるように努めています。

学修成果の評価

- 1) 各科目の評価は、シラバスに提示された方法に基づき、原則として平常点および試験などの総合評価によりおこなわれます。
- 2) 思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性については、それぞれの授業科目において必要に応じて達成度指標を設けて段階的に評価したうえで総合評価に加えます。とりわけアクティブ・ラーニングでは、ルーブリックでの評価が用いられます。
- 3) 学修成果として GPA の他、卒業研究や論文などで達成度を評価します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

求める学生像

- 1) 英語をはじめとする外国語運用能力の向上を自主的にめざす者
- 2) 外国の社会・文化・歴史などに強い関心と理解を持つ者
- 3) 学修した英語をはじめとする運用能力を大いに活用して、国際ビジネス関係、観光業や航空業などに就職したい、また英語教育に携わりたい、海外で日本語教員として活躍したいなど、自分の夢に向かって確実に進んでいく強い意志と向上心をもった者

入学時までに身につけるべき知識、能力など

- 1) 高等学校の英語をはじめとする教科に関する基礎的・基本的な知識・技能
- 2) 基礎的・基本的な知識・技能に基づき、自分の考えをまとめ、他者に伝えるための思考力・判断力・表現力
- 3) 教科の学習にとどまらず、学校内外の多様な学習や活動を経験することによる、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

入学者選抜

大学全体の方針に従い、大学入学時までに培われた確かな基礎学力、外国語学部への適性、多様な学習や活動を通じて身につけた能力や意欲などを、多面的・総合的に評価することを入学者選抜の基本的な方針としています。

カリキュラムの概要

「人と英語と社会をつなぐ」が英米語学科のカリキュラムモットーです。本学で培う「豊かな人間力」に「実践的英語力」と「キャリア形成」を結びつけることを目標に本学科の教育課程（カリキュラム）は編成されています。英語のエキスパートを育成するために、国際社会の中で自らの意見を発信し、知的に表現できるような高度なコミュニケーション能力の養成に重点を置きます。同時に、卒業後の進路について考えるための材料を提供する科目群が整備されています。

英米語学科のカリキュラムの特徴は、「2つのコース制」と「特別プログラム」です。これらにより、学生の特性と志向に適したプログラムを提供します。また、1年次の必修科目「基礎セミナー」は企業連携 PBL 型演習科目として実施され、学生が企業課題に取り組むことで自らのスキルやキャリアについて意識を高め、将来の履修計画を練る一助となります。2年次以降には、「国際ビジネス演習」「観光ビジネス演習」などの現場視察や課題解決を行う演習科目が開講され、実践的なスキルの向上が図られます。学内でのグローバル人材の育成を目指す人向けには、「Japan Studies in English」や「Japanese Subcultures」などの科目があり、別科留学生との交流を通じて異文化理解を深めます。1・2年次の必修科目である「英語プロジェクト」では、国際センターと協力してスピーチコンテストが開催され、上位入賞者は English lounge インターン（その後はティーチングアシスタント（TA））に選ばれます。これにより、英語スキルの向上だけでなく、イベントの企画運営能力も養われ、高度な人材の育成を目指します。

英米語学科の科目について

英米語学科生が履修する科目は大きく区分すれば、《基礎科目群》、《発展科目群》、《第二外国語科目群》そして「演習」の四つから成ります。これらの科目は全て選んだコースに関わらず履修することができます。

- 1) 《基礎科目群》は、本学部でぜひ学んでいただきたい、英語や言語一般についての科目から成り立っています。この科目群のうち英語力強化をおもな目的とする科目では、英語の skills を定着させ、さらに磨きをかけていきます。これらの科目は少人数制で編成され、英語の実践的な能力（「話す、聞く、書く、読む」の4技能）を養うことを目的とします。このため、1年次必修科目の「英語」科目では、各学期に週4回（各90分）の授業をネイティブスピーカーの教員と日本人教員の連携により進めます。特に、「Speaking」は、20名以下のクラスによって授業がおこなわれ、効果的に英会話能力を身につけることができます。「英語プロジェクト」はコミュニケーションスキルと言語知識を統合する科目で、自分の英語力をフルに活用して各学生が自分の興味に応じて選択したテーマについて調査しプロジェクトワークをおこないます。これまでの英語学習の基本的な部分に不安を感じている学生のために、習熟度別クラス編成を採用しています。現在の英語力と授業の難度・進度が合致し、学生が自信をもてるような編成です。うまく活用して英語力を伸ばすようにしましょう。

一方、「基礎科目群」には、教養ある話し手になるため皆さんに知っておいてほしい内容を提供する科目も含まれます。というのも、言語は文化や社会と密接に結びついたものであるからです。そして、こうした科目にも英語学習に役立つ情報が多く含まれています。

- 2) 「発展科目群」は「英語力発展科目」「国際社会科目」「キャリア形成科目」「外国体験科目」から成ります。「英語力発展科目」は「基礎科目群」で得た技能を土台として、より実践的な英語力の獲得をめざします。トピック別英語演習といった科目、ツーリズムなどで用いる実用的な英語を学ぶ科目、さらに、留学のための TOEFL 対策科目（留学英語・Academic English）や就職で求められる TOEIC の対策科目も用意してあります。英語で話すことが前提とされる授業はいわば留学して授業を受けているのと同じです。英語学習自体が目的ではなく、英語を用いて授業に参加することによって、実践レベルでの英語運用力の開発をめざします。

＜英語で実施される科目一覧＞

■基礎科目群

Speaking in English 1	Speaking in English 1（再）	Speaking in English 2	Speaking in English 2（再）
Writing in English 1	Writing in English 1（再）	Writing in English 2	Writing in English 2（再）
Speaking in English 3	Speaking in English 3（再）	Speaking in English 4	Speaking in English 4（再）
Writing in English 3	Writing in English 3（再）	Writing in English 4	Writing in English 4（再）
Reading in English 3	Reading in English 3（再）	Reading in English 4	Reading in English 4（再）
応用言語学講義 1 (Language Testing)	応用言語学講義 2 (Language Teaching Pedagogy)		

■発展科目群

Academic English	Advanced TOEIC	English for Tourism	Business English
News in English	Japanese Subcultures	Japan Studies in English	Global Issues
Reading & Debate in English 1	Reading & Debate in English 2	Research & Speech in English 1	Research & Speech in English 2
English for Presentations	English for Business Discussion	English for Business Writing	Language and Culture
Language and Society	Japanese Culture	American Studies	Intensive English

- 3) 「第二外国語科目群」では「韓国語」「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「中国語」の授業を提供しており、いずれも各言語に関する幅広い知識の習得と運用能力の向上をめざします。
- 4) 「演習」（3・4 年次必修）は 3 年次から始まります。「演習」（ゼミ）に参加して、卒業にいたるまでの 2 年間、専門的な研究活動をおこないます。卒業するために、「演習」は 3・4 年次の 2 年間続けて履修しなければなりません。「演習」は英米語学科での学修の中核に位置し、学生生活の集大成をおこなう授業科目です。指導教員の指導のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、卒業研究をおこないます。

以上のように、本学科のカリキュラムは、受講者の力と関心に沿って学修ができるように編成されていますので、みなさんはその科目がもつ目的をしっかりと把握した上で受講してください。

5) iWing プログラム（エアライン講座）

キャビンアテンダントやグランドスタッフなどの業種で就職を考えている学生を対象とした人材育成プログラムです。ANA（全日本空輸）や ECC との連携による豊富な科目を受講することで、航空業界の知識の獲得に加え、航空業界で

培われてきた「おもてなし」のスキルを学ぶことができます。また、講義だけでなく、中部国際空港などの航空関連施設での実地研修や、講師による個別就職指導も受けることができます。iWing プログラムへの登録は不要です。提供されている講義や研修から自由に選んで履修できます（注：一部で受講人数に制限があります）。

本プログラムは航空業界の視点で求められる適性を把握し、各自の今後の大学生活を方向づける一助となるものです。キャビンアテンダントの就職には TOEIC700 点以上が必要と言われており、エアライン系に就職を希望する学生は 1 年次から英語力をつける必要があります。

1・2 年次で本学カリキュラムの下記の科目を履修し、3 年次には、各自で学外の専門学校で就職対策科目を学ぶことをおすすめします。その際、3 年次の専門学校での履修については別途費用が必要です。また、そこでの学修は本学のカリキュラム外のため、本学での単位認定はできません。

<エアライン講座科目>

- 1 年次 「エアライン研究 1」 (2 単位)
「エアラインサービス論」 (2 単位)
「ホスピタリティ・マネジメント論」 (2 単位)
- 2 年次 「エアライン研究 2」 (2 単位)
「エアライン英語」 (2 単位)
「ホスピタリティ論」 (2 単位) *「ホスピタリティ論」は人数制限があります。
- 3 年次 「国際ビジネス演習」 (2 単位)

6) 充実のツーリズム（旅行・観光業）科目群

多くの学生にとっての希望業種であるツーリズム関係の科目を開講しています。ツーリズムでのビジネス経験をもつ専任教員による実践的な授業が展開されます。英米語学科の学生を対象とした科目なので、世界共通語である英語を用いた海外（アウトバウンド）ツーリズムを対象とするのはもちろんですが、海外から（インバウンド）の観光という観点からの内容も含まれます。エアライン講座科目とあわせて履修するとツーリズムに関心のある学生には就職に有利に働きます。

7) 中学校・高等学校の教員免許取得

英米語学科では中学校教諭（英語）と高等学校教諭（英語）の 1 種免許状を取得するための教職課程が認められています。中学校・高校の教諭になりたいという希望をもつ学生は、教職課程に加入し、計画的に必要な単位をとるように心がけてください。単位の修得にあたっては、「教職課程ハンドブック」を確認してください。

8) 日本語教員養成のためのプログラムの設置

日本語を学ぶ人に日本語や日本文化、日本の習慣や考え方などを教える日本語教員をめざす学生のために「日本語教員養成プログラム」を設置しています。このプログラムをとおして日本語教育のための基礎的・総合的な能力を身につけることが可能です。卒業所要単位に加えてこのプログラムで定める単位を修得すれば、修了証が交付されます。加入者募集は 1・2 年次の秋学期におこないます。

※このプログラムは「登録日本語教員」資格の取得に必要な要件を満たすものではありません。

他機関との単位互換

- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所での言語研修

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所は日本で初めての人文科学系の共同利用研究所であり、毎年多くの研修や研究会がおこなわれています。本学は同研究所と単位交換の協定を締結しており、夏期休暇中に東京地区と関西地区で実施される言語研修を修了した場合は、研修時間数に応じて、本学の科目「海外事情」（8単位を上限）に振替えることができます。

※ 過去に開催された言語研修や参加申し込みなど、詳細は東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ホームページ（<http://www.aa.tufs.ac.jp/>）で確認できます。

※ 単位の振替は、修了証を持参の上、教務課窓口で申請してください。

大学院科目の単位履修

● 大学院進学コース

外国語学部では、本学の大学院外国語学研究科（英語学専攻・国際文化協力専攻）と連携し、学部教育の充実・発展をはかることを目的に、「大学院進学コース」を設置しています。学部の4年次にコースに加入し、大学院の授業科目を先取りして履修することにより、大学院進学後に単位認定を受けることができます。大学院在籍1年間で修士課程を修めることも可能であり、学部在籍4年、大学院在籍1年で修士の学位を取得することもできます。また、大学院への進学が未定の場合でも、4年次に高度な専門知識を学びたいと願う学部生は本コースへ加入することができます。このように、学部と大学院の連携を密接にすることにより、意欲的な学生層が形成され、新たな教育効果が発揮されることを期待しています。

大学院進学コースでの履修は、以下のとおりです。

- ① 大学院で開講されている科目（演習を除く）について、学部4年次に履修します。
- ② 大学院での履修単位は、学部の卒業要件には含まれません。
- ③ 大学院授業科目の履修は、演習科目を除き10単位を上限としています。
- ④ 大学院での履修は、各学期（セメスター）の履修制限単位数（24単位）には含まれません。
- ⑤ 大学院授業科目は、大学院の科目等履修生として履修します。
- ⑥ 本学大学院に進学した場合は、本コースでの修得単位は大学院（修士課程）の修了単位に含めることができ、特に成績の優れた学生は大学院在籍1年間で修士の学位を取得することが可能となります。

大学院進学コースへの加入を希望する方は、教務課に問い合わせてください。

※ 指定された期日までに「大学院進学コース加入申込書」を教務課に提出する必要があります。

カリキュラム上の特色

1. 学生の特性と志向に基づく2つのコース制と特別プログラム

1.1 選べる2つのコース

英米語学科では、自分の特性と志向に基づいて2つのコースを選ぶことができます。コースは、自らの興味関心に合った講義を履修するための履修モデルを示すために設定されています。コースを選択することで特定の講義が履修できなくなることはありません。これは3年次から履修する「演習」についても同様です。以下に2つのコースの概要を示します。

① 言語文化リサーチコース

言語を学びたい学生が語学力を磨きながらことばと文化を探究するコースです。言語の仕組みやその学び方、また、それに関わる文化について理解を深めます。

指定科目： 応用言語学概論1、応用言語学概論2

② グローバルビジネスコミュニケーションコース

英語を使うキャリアへの意識と目標を持って学びを進めるコースです。英語に加えて、グローバルに展開する企業で活躍する上で必要な知識の獲得を目指します。

指定科目： 国際経済入門、Business English

これらのコースは、受験時あるいは入学時にあらかじめ決定するのではなく、1年次の英語必修科目、企業連携 PBL 型の基礎セミナー（2.1 で後述）、その他の基礎的科目を履修したうえで、自分の英語力やキャリア志向をもとに、**2年次に進級する際に決定します。**なお、コースごとの必修科目はなく、代わりに指定科目が設定されています。指定科目は、必ず受講しなければなりませんが、卒業には必須ではないという点で必修科目と異なります。

1・2年次に開講される「基礎セミナー」、「Speaking」、「Writing」、「リーディング/Reading」、「リスニング」、「英語プロジェクト」は両コースにおいて必修となります。またどちらのコースにおいても、3年次の語学スキル向上のための指定科目として、「TOEIC 対策 1」（3年次春、スコア設定 450 以上）、「TOEIC 対策 2」（3年次秋、スコア設定 600 以上）が設定されています。

1.2 特別プログラム「英語スペシャリストプログラム」（選抜あり）

上記 2 コースとは別に、中長期留学を志望する学生、または留学はしないが英語力の養成に注力したい学生のためのプログラムが英語スペシャリストコースです。このプログラムは、全学生が自らの特性と志向に基づき選択する 1.1 の 2 コースとは別に設定され、入学時のプレイスメントテスト（英語）と TOEIC 等の英語能力試験の点数に基づきプログラム加入者を選抜します。プログラムは **1年次からスタート**し、定員は 30 名程度です。本プログラムの特徴は、以下の通りです。

- (1) 1・2年次の基礎科目（Speaking, Writing, リーディング、リスニング、英語プロジェクト）はクラス指定により、本プログラムの学生のみを対象とした特別指導を行います。
- (2) 1年次秋と2年次春、3年に以下の指定科目を履修します。

1 年秋	留学英語 Academic English
2 年春	Japanese Culture American Studies
3 年次	Intensive English

1年次の秋学期には、海外提携校の要求する英語能力試験（TOEFL や IELTS）のスコアを満たすための対策として、日本語で提供される「留学英語」、また留学先での学修を見据えて英語で提供される「Academic English」を指定科目として受講します。さらに2年次春学期には、英語を学ぶのではなく、英語を使って学ぶ「Japanese Culture」および「American Studies」を指定科目としています。また、留学志望の学生は、2年の春までの授業を受講することで、留学先でスムーズに授業に参加できるようになります。さらに、留学から戻ってきたとき、3年次以降に開講される「Intensive English」を受講することで、継続して英語力を伸ばすことができます。なお、留学を志望しない場合でも、このプログラムに加入することで留学を疑似体験することができます（2年次春学期までに履修することになる必修および指定科目は、そのほとんどが英語のみで授業が行われる科目、または日本やアメリカに関することを英語で学ぶ科目（content-based 科目）になります）。

2. キャリア志向科目

2.1 「基礎セミナー」で学ぶ企業連携 PBL 型演習

全学部の1年生の必修科目である「基礎セミナー」は、大学の学びに必要なアカデミックスキル（ノートの取り方やレポートの組み立て等）と、社会人として必要となるソーシャルスキル（時間管理やメールの送り方など）を学ぶ講義です。外

国語学部では、この「基礎セミナー」を企業と連携した問題解決型の演習科目と位置づけています。ここでは、企業が提起する実務上の課題への取り組みをとおして、アカデミックスキルとソーシャルスキルを効率的に身につけます。大学に必要な知識を企業の課題解決に結びつけることで、企業での実務を体験し、大学生活の学びが実務上どれだけ有益かを理解することが目標です。

1年生の春学期から始まるこのプロセスは、自身の長所や短所を認識するきっかけとなります。問題解決のプロセスを通じて、将来の学びやキャリアに向けてどのスキルを伸ばし、どの課題を克服する必要があるかを考え、キャリア志向の4年間の履修計画を促進します。

2.2 実務経験のある教員によるキャリア形成科目群

キャリアを意識した4年間の履修計画を促すために1年次必修科目「基礎セミナー」で企業連携PBL型演習科目を履修することに加え、実務経験のある教員による以下の科目群を開講します。

エアライン研究1・2、エアラインサービス論、ホスピタリティ論、ホスピタリティ・マネジメント論、観光産業論、地域観光論、ツーリズム論、貿易・商社研究、流通研究、メディア研究、秘書キャリア研究、観光ビジネス演習、国際ビジネス演習

これらの科目の中には、エアライン業界を目指す人のためのiWingプログラム科目や、ホテル・観光業などを目指す人のためのツーリズム科目（この後の「英米語学科の科目」の中で説明）だけでなく、立地的にかかわりが深く英語運用能力も活かすことのできる海運業を見据え、観光、貿易・商社、流通等とホスピタリティについて学ぶことができます。特に、上記「基礎セミナー」に加え、2年次以降も企業連携による演習科目を開講します。「国際ビジネス演習」、「観光ビジネス演習」では、企業連携による現場視察や課題解決がおこなわれ、1年次の「基礎セミナー」で身に着けたスキルを2年次以降強化し発展させることができます。

3. 留学生との学び合いによる、学内でのグローバル人材の育成

外国語学部では、在学中の留学を推奨していますが、留学をせずとも英語力を向上できる学習環境も用意しています。1で述べた2コース制および英語スペシャリストプログラムと並行して、以下の二つに参加することで国内にしながら英語力を伸ばします。

① 留学生別科と連携し、留学生とともに学ぶ科目「Japan Studies in English」「Japanese Subcultures」

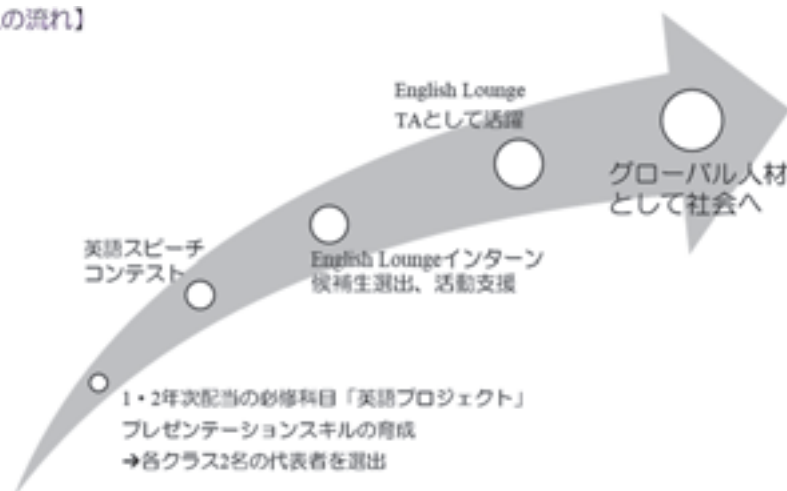
「Japan Studies in English」と「Japanese Subcultures」の講義では、様々な国から日本に学びに来ている留学生と一緒に学び、彼らと英語で議論をします。これらの科目は英語で日本の諸側面について学ぶ科目となります。通常の講義では接することのない留学生とともに、馴染みのある自国に関するトピックについて英語で学び、考え、発信することができるようになることを目指します。留学を目指す学生にとっては留学先での自国文化の発信に備える機会、また留学を終えた学生にとっては、帰国後も留学中さながら留学生と英語で学びを続ける場となります。

② English Lounge（国際センター）との連携による正課×課外プログラム

正課科目である「英語プロジェクト1・2」（1年次必修）および「英語プロジェクト3・4」（2年次必修）と、i-Lounge内の英会話学習スペースであるEnglish Loungeを連携させた、学内でのグローバル人材養成を目指すプログラムです。英語プロジェクトの各クラスで選ばれた学生は、英語スピーチコンテストに参加します。また、国際センターEnglish Loungeのインターン候補生となり、いずれはi-Loungeのティーチングアシスタント（TA）として、留学志望者からの相談対応や後輩たちの勉強サポートをするだけでなく、国際センター主導の様々な国際交流イ

ベントの企画運営をおこないます。TA の活躍は学内でも際立っており、在学中の外国語学部生の憧れです。グローバル人材養成の仕組みとして、正課科目「英語プロジェクト」の学びから国際センターEnglish Lounge での活躍につながるプログラムになります。

【プログラムの流れ】



資格単位認定

学生が主体的に学ぶ意欲を評価することを目的として、「ビジネス実務 A～C」を配置しています。また、より高い目標へ挑戦する学生をサポートすることを目的として、特定の授業科目の単位認定制度を設けています。学部が指定する資格を取得し、定められた基準をクリアした場合に、本人の申請にもとづき、所定の単位が認定（R 評価）されます。なお、資格センターではみなさんの便宜をはかるために、各種資格講座を学内で開設しています。

1. 対象となる資格など

表 1（「ビジネス実務 A～C」を単位認定）

認定する資格・検定名	認定基準	認定する資格・検定名	認定基準
ビジネス能力検定試験（B 検）ジョブパス	2 級以上	宅地建物取引士資格試験	資格取得
秘書技能検定試験	2 級以上	行政書士試験	資格取得
IT パスポート試験	資格取得	リテールマーケティング（販売士）検定試験	2 級以上
情報セキュリティマネジメント試験	資格取得	一種証券外務員資格	資格取得
旅行業務取扱管理者試験 （「国内」または「総合」）	資格取得	二種証券外務員資格	資格取得
世界遺産検定	3 級以上	日本語検定	2 級以上
通関士試験	資格取得	ファイナンシャル・プランニング技能検定	3 級以上
基本情報技術者試験	資格取得	貿易実務検定	C 級以上
サービス接客検定	2 級以上	日本商工会議所簿記検定試験	2 級以上
		MOS Associate（Excel・Word・Power Point）	資格取得

表 2（特定の授業科目を単位認定）

認定する資格・検定名と基準	認定される授業科目（単位数）	認定される最大単位数
実用英語技能検定 2 級	TOEIC のための英文法 1（2）	2 単位
実用英語技能検定準 1 級	TOEIC のための英文法 1・2（各 2） Advanced TOEIC（2）	1 年生：6 単位 2 年生以上：4 単位

TOEFL iBT 61 点以上 — 80 点未満 TOEFL iTP 500 点以上 — 550 点未満	TOEIC のための英文法 1・2 (各 2) Advanced TOEIC (2) 留学英語 (2)	4 単位
TOEFL iBT 80 点以上 TOEFL iTP 550 点以上	TOEIC のための英文法 1・2 (各 2) Advanced TOEIC (2) Academic English (2) 留学英語 (2)	8 単位
TOEIC Listening & Reading (IP を含む) 600 点以上 — 670 点未満	TOEIC のための英文法 1・2 (各 2)	2 単位
TOEIC Listening & Reading (IP を含む) 670 点以上 — 800 点未満	TOEIC のための英文法 1・2 (各 2) Advanced TOEIC (2)	4 単位
TOEIC Listening & Reading (IP を含む) 800 点以上	TOEIC のための英文法 1・2 (各 2) Advanced TOEIC (2) Academic English (2) 留学英語 (2)	8 単位

2. 申請期間

春学期は 6 月、秋学期は 12 月の開講日に申請可能です。申請月以前 2 年以内に取得したものに限り、入学前に取得したものは、入学年度に限り受けつけます。

3. 申請期間の特例

最終学年の学生の内、卒業判定の結果、卒業要件を満たさず、資格の単位認定により卒業資格を得られる場合に限り、「2.申請期間」以外に教務課より CCS にて周知される特定の期間において追加申請を受けつけます。

4. 認定

各学部において承認された場合、単位を認定します。

5. 成績評語など

単位認定の成績評語は「R」（認定）とします。認定された科目は GPA 算出の対象外となります。

6. 補足事項

認定単位数は、履修制限単位数には含みません。

表 1 について、各種資格の申請は各 1 回とします。

表 2 について、過去に申請した点数・等級を下回る申請は認定しません。認定の上限は 8 単位までとします。

演習科目

先にも述べたとおり、英米語学科では、3 年次から「演習」（ゼミ）に参加して、卒業にいたるまでの 2 年間、専門的な研究活動をおこないます。卒業するために、「演習」は 3・4 年次の 2 年間続けて履修しなければなりません。「演習」はみなさんの英米語学科での学修の中核に位置し、学生生活の集大成をおこなう授業科目です。指導教員の指導のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や議論を通じて問題を解決しながら、自らの能力の向上に努めるとともに、人格的な交流をとおして、多くの友人関係を育成し、また、指導教員との間にみなさんの学修にとって有意義なコミュニケーションのパイプを形成してください。

「演習」は、指導教員と学生、あるいは学生相互間での学問的な意見交換の場であり、各学生が主体的に活動を進めていく点が、他の授業科目と根本的に異なります。そこでは、自己の学問的見解を進んで発表し、これに寄せられるさまざまな意見を聞くことによって、専門的知識の水準を高めていくことが必要です。「演習」で作成される卒業研究は、みなさんにとってはじめての本格的な研究成果となり、貴重な経験として、卒業後も役に立つことになるはずです。

また、「演習」ではみなさんの進路指導もおこないます。指導教員、他の学生（または先輩学生）と相談をしながら進路を選択し、履歴書やエントリーシート作成、面接の準備などをおこないます。

「演習」の募集と応募について

「演習」を受講するためには、まず2年次春学期におこなわれるガイダンスに参加することが必要です。各教員からゼミの内容・実施方法などについての説明をよく聞いて、希望する指導教員を決定してください。その後、2年次秋学期にCCSを通じて応募をおこない、選考の結果所属する「演習」が決定します。演習募集時の募集要項をよく読み、日程などを間違えないよう、確実に応募手続きをおこなってください（応募時期に海外留学へ行く学生は、締め切り時期や応募方法が異なる場合がありますので、事前に必ず教務課で確認をしてください）。

基礎セミナー

3・4年次の演習とは別に、1年次春学期には「基礎セミナー」を履修します。これは、新入生のみなさんが新しい大学生活を始めるための第一歩をお手伝いするための科目です。具体的には、名古屋学院大学はどんな大学なのか、大学ではどのように学習していけばいいか、レポートの書き方、発表のしかたなどについて学びます。また、外国語学部では、カリキュラムの特色の2.1に書かれている通り、企業連携によるPBL型演習もおこなわれます。

履修モデル

英米語学科では、英語の実践的な能力を磨くための科目「Speaking in English 1～4」、「Writing in English 1～4」、「英語リーディング 1・2」、「Reading in English 3・4」、「英語リスニング 1・2」、「英語プロジェクト 1～4」および「演習」が必修科目となっています。

これらの授業科目以外の学部専門科目はすべて選択科目であり、どの授業科目を履修するかは、卒業するための条件や授業時間割上の制約などがありますが、基本的にはみなさんが自由に決めることができます。しかしながら、明確な学修計画を立てずに、ただ決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修のしかたでは、たとえ4年間在籍したとしても、英米語学科の卒業生にふさわしい能力と見識をもつことはできません。

そこで、英米語学科では、先に説明した通りコース制を用いて、自らの興味関心に合った講義を履修するための履修モデルを参照できるようになっています。自らの学修目標にあわせて、各々の授業科目の内容や開講時期（配当年次）を考慮しながら系統的に履修をしましょう。

以下に、みなさんの学修計画が立てやすいように、それぞれのコースの履修モデルを示します。

A. 言語文化リサーチコース

言語を学びたい学生が語学力を磨きながらことばと文化を探究するコースですので、言語の仕組みやその学び方、また、それに関わる文化に関する講義を中心に履修します。なお、指定科目についてはコース選択後、自動的に履修登録がされます。

このコースでは以下のような授業を履修します。

指定科目	応用言語学概論 1、応用言語学概論 2
発展科目	TOEIC のための英文法 1、言語と心理、音声学など

B. グローバルビジネスコミュニケーションコース

英語を使うキャリアへの意識と目標を持って学びを進めるコースです。英語に加えて、グローバルに展開する企業で活躍する上で必要な知識の獲得を目指します。指定科目については、自動的に履修登録がされます。

このコースでは、以下のような授業を履修します。

指定科目	国際経済入門、Business English
発展科目	エアラインサービス論、地域観光論、Global Issues など

C. 英語スペシャリストプログラム

中長期留学を志望、または留学はしないが英語力の養成に注力したい学生のためのプログラムとなります。

この履修モデルでは以下のような授業を履修します。

指定科目	Academic English, 留学英語, Japanese Culture, American Studies, Intensive English
発展科目	Reading & Debate in English 1, Language and Culture, Language and Society

上に挙げた履修モデルは、あくまでモデルケースとして考えたもので、これら以外にもみなさんの学修意欲と目的に応じて、自分自身の履修パターンをつくることができます。

卒業要件

卒業要件単位数

外国語学部の授業科目表（次頁以降参照）にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。それぞれの単位数には必修科目を含みます。区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

NGU教養 スタンダード 科目	キリスト教			26単位以上 (必修10単位を 含む)
	自己理解と自己開発			
	数理・データサイエンス・AI教育			
	言語とコミュニケーション			
	歴史・文化の理解、社会の理解、 自然・人間・生命の理解、地域の理解			
	教職 ※1			
学部専門科目	基礎科目群	必修	30単位	88単位以上
	基礎科目群	14単位以上		
	第二外国語科目群 ※2	必修選択	4単位	
	発展科目群	40単位以上		
自由選択科目(フリーゾーン) ※3				10単位以上
合計				124単位以上

[注記]

- ※1 教職課程加入者のみ履修可。8単位までをNGU教養スタンダード科目の卒業要件単位とすることができる。(8単位を超える分については、自由選択科目の単位とする。)
- ※2 ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語の中から1ヶ国語を選択し、入門・発展のそれぞれ1・2を修得しなければならない。
- ※3 科目区分を問わず、自由に選択できる。

英米語学科 NGU教養スタンダード

授業科目名	単位数		配当 年次	ナンバ リング
	必修	選択		
キリスト教				
キリスト教概説1	2		1	AC1101
キリスト教概説2	2		1	AC1102
聖書学		2	2	AC2301
キリスト教倫理		2	2	AC2302
キリスト教史		2	1	AC1301
自己理解と自己開発				
基礎セミナー	2		1	AU1101
発展セミナー		2	1	AU1301
キャリアデザイン1a		2	1	AU1302
キャリアデザイン1b		2	1	AU1303
キャリアデザイン2a		2	2	AU2301
キャリアデザイン2b		2	2	AU2302
ボランティア学		2	1	AU1304
ボランティア演習		2	1	AU1305
インターンシップ1		2	1	AU1306
インターンシップ2		2	1	AU1307
数理・データサイエンス・AI教育				
情報処理リテラシー	2		1	AI1101
データサイエンスリテラシー		2	1	AI1301
データサイエンス概論		2	2	AI2301
AI概論		2	2	AI2302
情報処理論		2	2	AI2303
言語とコミュニケーション				
日本語表現	2		1	AV1101
実用日本語表現法		2	1	AV1301
アカデミック日本語表現法		2	2	AV2301
歴史・文化の理解				
【教養】日本史		2	1	AW1301
【教養】世界史		2	1	AW1302
【教養】日本文学		2	1	AW1303
【教養】外国文化論		2	1	AW1304
【教養】文化人類学		2	1	AW1305
【教養】陶芸論		2	1	AW1306
【教養】陶芸演習		2	1	AW1307
社会の理解				
【教養】政治学		2	1	AO1301
【教養】国際政治学		2	1	AO1302
【教養】国際関係論		2	1	AO1303
【教養】平和学		2	1	AO1304
【教養】法学		2	1	AO1305
【教養】日本国憲法		2	1	AO1306
【教養】経済学		2	1	AO1307
【教養】経営学		2	1	AO1308
【教養】統計学		2	1	AO1309
【教養】社会学		2	1	AO1310
【教養】教育学		2	1	AO1311
自然・人間・生命の理解				
【教養】哲学		2	1	AN1301
【教養】心理学		2	1	AN1302
【教養】数学		2	1	AN1303
【教養】物理学		2	1	AN1304
【教養】化学		2	1	AN1305
【教養】地学		2	1	AN1306
【教養】生物学		2	1	AN1307
【教養】環境学		2	1	AN1308
【教養】スポーツ健康科学		2	1	AN1309
【教養】スポーツ初級a		1	1	AN1310
【教養】スポーツ初級b		1	1	AN1311
【教養】スポーツ中級a		1	2	AN2301
【教養】スポーツ中級b		1	2	AN2302
地域の理解				
まちづくり学		2	1	AR1301
まちづくり演習		2	1	AR1302
上級まちづくり演習		2	2	AR2301

授業科目名	単位数		配当 年次	ナンバ リング
	必修	選択		
教職				
教職論		2	1	AQ1301
教育原理		2	1	AQ1302
教育心理学概論1		2	1	AQ1303
教育心理学概論2		2	1	AQ1304
教育制度論		2	1	AQ1305
特別活動論		2	2	AQ2301
教育とICT活用		2	2	AQ2302
道徳教育論		2	2	AQ2303
生徒・進路指導論		2	2	AQ2304
教育相談		2	2	AQ2305

英米語学科 専門科目

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング	
		必修	選択			
学部専門科目	基礎科目群	英語力強化科目				
		Speaking in English1	1		1	FE1101
		Speaking in English2	1		1	FE1102
		Writing in English1	1		1	FE1103
		Writing in English2	1		1	FE1104
		英語リーディング1	1		1	FE1105
		英語リーディング2	1		1	FE1106
		英語リスニング1	1		1	FE1107
		英語リスニング2	1		1	FE1108
		Speaking in English3	1		2	FE2101
		Speaking in English4	1		2	FE2102
		Writing in English3	1		2	FE2103
		Writing in English4	1		2	FE2104
		Reading in English3	1		2	FE2105
		Reading in English4	1		2	FE2106
		英語プロジェクト1	2		1	FE1109
		英語プロジェクト2	2		1	FE1110
		英語プロジェクト3	2		2	FE2107
		英語プロジェクト4	2		2	FE2108
		演習	8		3～4	FE3101・FE4101
		英語学概論1		2	1	FE1301
		英語学概論2		2	1	FE1302
		英語文学概論1		2	1	FE1303
		英語文学概論2		2	1	FE1304
		応用言語学概論1		2	1	FE1305
		応用言語学概論2		2	1	FE1306
		英語学講義1（実践英文法）		2	2	FE2301
		英語学講義2（英文法と理論言語学）		2	2	FE2302
		英語文学講義1（英語文学と文化）		2	2	FE2303
		英語文学講義2（英語文学と社会問題）		2	2	FE2304
		応用言語学講義1（Language Testing）		2	2	FE2305
		応用言語学講義2（Language Teaching Pedagogy）		2	2	FE2306
		日本語概論1		2	2	FE2307
		日本語概論2		2	2	FE2308
		日本語語彙論		2	2	FE2309
		日本語文法論		2	2	FE2310
		ことばの世界		2	2	FE2311

授業科目名		単位数		配当年次	ナンバリング
		必修	選択		
第二外国語科目群	入門ドイツ語1		1	1	FE1201
	入門ドイツ語2		1	1	FE1202
	発展ドイツ語1		1	2	FE2201
	発展ドイツ語2		1	2	FE2202
	入門フランス語1		1	1	FE1203
	入門フランス語2		1	1	FE1204
	発展フランス語1		1	2	FE2203
	発展フランス語2		1	2	FE2204
	入門スペイン語1		1	1	FE1205
	入門スペイン語2		1	1	FE1206
	発展スペイン語1		1	2	FE2205
	発展スペイン語2		1	2	FE2206
	入門中国語1		1	1	FE1207
	入門中国語2		1	1	FE1208
	発展中国語1		1	2	FE2207
	発展中国語2		1	2	FE2208
	入門韓国語1		1	1	FE1209
	入門韓国語2		1	1	FE1210
	発展韓国語1		1	2	FE2209
	発展韓国語2		1	2	FE2210
学部専門科目	英語力発展科目				
	Academic English		2	1	FE1307
	留学英語		2	1	FE1308
	TOEICのための英文法1		2	1	FE1309
	TOEICのための英文法2		2	1	FE1310
	Advanced TOEIC		2	2	FE2312
	TOEIC対策1		2	3	FE3301
	TOEIC対策2		2	3	FE3302
	エアライン英語		2	2	FE2313
	English for Tourism		2	2	FE2314
	Business English		2	2	FE2315
	News in English		2	2	FE2316
	シネマ英語		2	2	FE2317
	英語とファッションビジネス		2	2	FE2318
	Japanese Subcultures		2	2	FE2319
	Japan Studies in English		2	2	FE2320
	英語翻訳入門		2	2	FE2321
	英語同時通訳入門		2	2	FE2322
	Reading & Debate in English1		2	2	FE2323
	Reading & Debate in English2		2	2	FE2324
	Research & Speech in English1		2	2	FE2325
	Research & Speech in English2		2	2	FE2326
	English for Presentations		2	2	FE2327
	English for Business Discussion		2	2	FE2328
	English for Business Writing		2	2	FE2329
	異文化理解概論		2	2	FE2330
	言語と心理		2	2	FE2331
	Language and Culture		2	2	FE2332
	Language and Society		2	2	FE2333
	Japanese Culture		2	2	FE2334
	Intensive English		2	3	FE3303
	国際社会科目				
	American Studies		2	2	FE2335
	国際政治入門		2	2	FE2336
	ヨーロッパ研究		2	2	FE2337
	国際経済入門		2	2	FE2338
	Global Issues		2	2	FE2339

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング	
		必修	選択			
学部専門科目	発展科目群	キャリア形成科目				
		英語科教育法1		4	2	FE2340
		英語科教育法2		4	2	FE2341
		音声学		2	2	FE2342
		早期英語教育法		2	2	FE2343
		ビジネス翻訳		2	2	FE2344
		貿易・商社研究		2	2	FE2345
		流通研究		2	2	FE2346
		メディア研究		2	2	FE2347
		秘書キャリア研究		2	2	FE2348
		観光産業論		2	2	FE2349
		観光ビジネス演習		2	2	FE2350
		エアライン研究1		2	1	FE1311
		エアライン研究2		2	2	FE2351
		ツーリズム論		2	2	FE2352
		地域観光論		2	2	FE2353
		ホスピタリティ・マネジメント論		2	1	FE1312
		ホスピタリティ論		2	2	FE2354
		国際ビジネス演習		2	2	FE2355
		エアラインサービス論		2	1	FE1313
		ビジネス実務A		2	1	FE1314
		ビジネス実務B		2	1	FE1315
		ビジネス実務C		2	1	FE1316
		外国体験科目				
		海外事情1		4	1	FE1317
		海外事情2		4	1	FE1318
		海外事情3		4	1	FE1319
		海外事情4		4	1	FE1320
		海外事情5		4	1	FE1321
		海外事情6		4	1	FE1322
		海外事情7		4	1	FE1323
		海外事情8		4	1	FE1324
		海外事情9		4	1	FE1325
		海外事情10		4	1	FE1326
		海外事情11		2	1	FE1327
		海外事情12		2	1	FE1328
		海外事情13		2	1	FE1329
		海外事情14		2	1	FE1330
		海外事情15		2	1	FE1331

選択必修科目

ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語の中から1ヶ国語を選択し、入門・発展の1と2を修得しなければなりません

入門ドイツ語1・2	入門スペイン語1・2
発展ドイツ語1・2	発展スペイン語1・2
入門フランス語1・2	入門中国語1・2
発展フランス語1・2	発展中国語1・2
入門韓国語1・2	
発展韓国語1・2	